

平成 30 年 3 月 29 日

## 平成 29 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 医学系研究科看護学専攻  
氏 名 坂口美和

活動テーマ	人生経験のもつ強みを「聞き書き」を通して発見しよう
実施期間	平成 29 年 7 月 6 日 ~ 平成 30 年 3 月 18 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>伊勢の地域で「聞き書き」が根付くように、「終わりよければ」いせの会が主催となり、3回連続の講座を行った。</p> <p>【1回目】坂口が、人生経験はその人の強みになること、聞き書きのもつ魅力、聞き書きのエッセンスについて話した。その後、参加者には、話しの感想や、聞き書きをやろうと思った動機を話してもらい、今回の参加者がどのような人たちの集まりなのかを全員で理解した。</p> <p>【2回目】聞き書き作家小田豊二さんから、実際の聞き書きの仕方、製本の仕方を学んだ。そして、人生経験を話してくださるゲスト（90代）を招いて、小田さんのインタビューを実際に見せてもらいながら、各自、語られる内容を録音したり、メモを取ったりして、聞き書きの作成に備えた。この日は一日コースなので、休憩時間にはお茶を飲みながら参加者同士、親睦をはかった。このことも、聞き書きの仲間作りには大切なこととして位置づけていた。2回目のときにも、この日のことを振り返るために感想を書いてもらった。</p> <p>この後、約1か月の間で、話を聞いた内容をまとめて、ゲストの方の聞き書き原稿を作成し、小田さんに提出して添削をしてもらうという課題が課せられる。事務局からは残暑お見舞いを兼ねて、課題が忘れ去られないように、期限1週間前くらいに葉書を出し、遅れている人には声をかけ、できるだけ書いてもらうようにした。</p> <p>【3回目】事務局では、聞き書きを提出した全員の原稿を、全員分印刷をして配り、小田さんの講評を聞きながら、他者の聞き書きに学んだ。そして、提出した20の方が修了証をもらった。</p> <p>その後、茶話会をして、今後の聞き書き活動について話し合いをした。また、3回目の感想や今後の聞き書き活動についても記載してもらった。今後、スキルアップ講座があったときに連絡が欲しいかを問うと、全員の人が希望した。</p> <p>【その後】各自で聞き書きを行い、その情報は事務局に入っている。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>聞き書き連続講座の感想を聞くと、「高齢の母の人生について知りたいと思います。聞き書きを勉強して、一冊の本を作りたいと思います」「聞き書き本を作るって素敵な贈り物を差し上げることだなと思</p>

ました。ぼつぼつやってみたいです」「もう少し早く知りたかった」「モデルさんの話を大変興味深く聴かせてもらいました」「モデルさんの記憶力に圧倒し、また、昔々の生のお話に惹き付けられた」と書いている参加者がいた。聞き書きを作ることへの関心や意欲が伺えると同時に、聞き書きを作るにあたって、話を伺う相手の方の人生経験の強みを見出し、それを聞き書きにして贈り物にできることの醍醐味を感じていたと考える。

また、今後の聞き書き活動の考えを聞くと、「機会を見つけて活動したいと思う」「出来ればやってみようと思う」「スキルアップ講座をお願いします」「時間の許す範囲でやらせていただきたい」「認知症の母の介護を10年していたが楽しい毎日でした。介護中のメモを頼りに亡き母のことをもう一度よく知って、聞き書きをプレゼントしてみたい」と前向きに考えているようだった。

講座の後、個々人が聞き書きを作成しているところである。3月までに3人が聞き書きとしてまとめた。聞き手と語り手、語り手と読み手というように、人と人の繋がりをつくり、語り手への畏敬の念をもつことができる。そのため、3人の聞き書きを通して、語り手と多くの読み手を繋ぐことができたと考える。

事務局となっている「終わりよければ」いせの会では、聞き書き講座の参加者が行なった聞き書きを集めて、地域の聞き書きの書棚を作りたいという構想もある。また、聞き書き講座で学んだ参加者が、自分の所属する会で紹介したりと広がりを見せている。今後は、スキルアップ講座も検討している。

### (3) 共同実施者との連携状況

終わりよければいせの会の共同実施者とはメールでやりとりし、各回の準備、当日の運営、参加者へのインフォメーション内容を考え、一緒に行ってきた。今後も聞き書き講座を行う時のために、必要な準備はすべて共有した。

### (4) 大学の教育・研究成果のかかわり

人生の終焉を生きる人は、多様なニーズをもっている。その中には人生統合ニーズ、コミュニケーションニーズ、生きがいニーズがあり、エンド・オブ・ライフ・ケアにおいて、これらのニーズへの支援は重要である。また、その人のもつ強みはなかなか可視化されてきていない。人生経験は強みの宝庫である。「聞き書き」は、ニーズへの支援また、強みに気づけるツールとして適している。

### (5) イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）

第1回 基礎講座「人生経験のもつ強みを「聞き書き」を通して発見しよう」：平成29年7月16日13時－16時，18名参加。

第2回 実践講座「書き方教室と製本教室，語り手（ゲスト90代女性）をお迎えし、話をお聞きする」：平成29年8月5日10時－16時，21名参加。

第3回 聞き書きの添削と講評「地域の中で「聞き書き」を根付かせるためにできることは？」：平成29年9月16日13時-16時，18名参加。

実施場所：いずれもホームホスピスいせ あこや

いせ毎日 2017年(平成29年)10月5日(発行日毎月第1、第3木曜日)

ひとりひとりの人生を1冊に

## 心添う『聞き書き』講座

「終わりよければ」いせの会



「誰でもできる聞き書き講座in伊勢」が9月16日、伊勢市岡本3のホームホスピスいせ「あこや」(藤田慶子理事長)で開かれた。聞き書きとは、お年寄りの話を聞き、その人のひとり語りとして書き、1冊の本に仕上げ贈呈するホ

ランティア活動。感動の共有や脳の活性化につながる。と、介護の現場で注目されている。

「終わりよければ」いせの会が主催した。代表の遠藤太久郎さん(67)は、いせ在宅医療クリニック(同市御園町高向)の医師。住

み慣れた地域で誰もが最期まで自分らしく暮らせる社会を目指し、在宅緩和ケアや訪問リハビリなどの支援に取り組んでいる。

昨年9月に長崎県で開かれた「日本聞き書き学会全国大会」で、同学会講師の小田豊二さん(72)と出会い、伊勢でも聞き書きを広めたいと講師を依頼した。講座は全3回で、7月の基礎講座では、三重大学大学院医学系研究科看護学専攻の坂口美和さんが「人生経験の持つ強みを『聞き書き』を通して発見しよう」と題して話し、8月の実践講座では、小田さんの指導で実際にお年寄りから話を聞いた後、書き方と製本を学んだ。

最終回のこの日は、県内や名古屋から18人が参加し、小田さんから原稿の添削と講評を受けた。写真。「わたくし」「俺」など一人称の違いや笑い声の様子まで忠実に記し、その人らしさを大切にすること、話し手になりきって書くので補足はしてよいことなどを、各自の原稿に照らして学んだ。

参加者らは、「その人の人の物語があると思う」「戦中戦後の実話をもっと聞きたい」と話し、96歳の母の誕生日に聞き書きした女性は、「私たちを産んで育ててくれて感謝している」と目を潤ませていた。

(伸)